

早稲田大学 文学部 国語(現代文) 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(現代文2問、古文1問、漢文1問)

〔大問別講評〕

(一) 評論文。「自己と他者」がテーマの文章。出典：末木文美士『他者／死者／私』。

(本文字数：約 3200 字 = 昨年より約 800 字減少。設問数：9 = 昨年より1問増加。)

小問	難易度	コメント
問一	易	〔空欄補充〕前後の文脈から容易に判断できる。
問一	易	〔空欄補充〕直前の逆接語「しかし」と、各選択肢の語義から判断する。
問一	易	〔空欄補充〕接続語補充。空欄の前後が因果関係にあることから判断する。
問二	標準	〔空欄整序〕抽象的表現から具体的表現へと並んでいることが判断できたか。
問三	やや難	〔傍線部説明・抜き出し〕傍線部を含む一文と、その2行前の一文とが同義。
問四	やや難	〔傍線部説明〕消去法による。イが紛らわしいが、前半が傍線部の4～5行後に反し、「役割が...残って」が第二段落に反する。
問五	やや易	〔傍線部説明〕傍線部の次の段落内容から判断する。
問六	標準	〔空欄補充〕空欄の前後と同義表現が、空欄の6～7行前にある。
問七	やや難	〔傍線部説明〕ニが紛らわしいが、「普遍的な人間の運命」は本文にない。
問八	やや易	〔趣旨合致〕紛らわしい選択肢がない。
問九	易	〔漢字書き取り〕いずれも、評論文中に頻出の語句。

(二) 評論文。「科学と経済学」がテーマの文章。出典：毛利衛『普遍性追求 新たな発想で』。

(本文字数：約 3000 字 = 昨年より約 100 字減少。設問数：7 = 昨年より2問減少。)

小問	難易度	コメント
問十	やや易	〔脱落文挿入〕脱落文と、空欄ホの直前部分との対応から判断する。
問十一・a	標準	〔空欄補充〕空欄の4～6行前の内容から判断する。ハ・ホは部分的である。
問十一・b	標準	〔空欄補充〕直前の「多くの自然科学現象」から判断する。ハは狭い。
問十一・c	標準	〔空欄補充〕「国威」を「高める」意味で使う定型的表現。
問十二	標準	〔傍線部説明〕傍線部の直前と照合する。イは「波及させる」が誤り。
問十三	易	〔傍線部説明〕傍線部と照合すれば容易に判断できる。
問十四	やや難	〔傍線部説明〕直前の「人類は...な存在」が紛らわしいが、「変化」の記述としては不十分。
問十五	易	〔傍線部説明〕傍線部までの文脈から容易に判断できる。
問十六	易	〔傍線部説明〕傍線部までの文脈から容易に判断できる。

〔総合コメント・今後の指針〕

大問一は、「自己と他者」をテーマにした評論文。多くの高校の教科書や予備校のテキストで取り上げられている頻出テーマなので、それほど抵抗なく読めた受験生が多かったのではないだろうか。設問は、難易度が高いものと低いものとに分かれた。基本的な設問をとりこぼさずに、難しい設問をどれだけ解けたかで合否が分かれたであろう。傍線部や空欄の近くをとくに緻密に分析する必要がある。

大問二は、科学と経済学を比較して、今後の経済学のあり方を論じた評論文。内容は難しくないもので、抵抗なく読めたであろう。設問も問十四以外は難しくないもので、合格するには高得点をとる必要があると思われる。問十一の空欄補充を落とさなかったかどうかがかかれ目なのではないだろうか。

早稲田大学 文学部 国語(古典) 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(現代文2問、古文1問、漢文1問)

〔大問別講評〕

(三) 古文。出典：『無名草子』。

(本文字数：約 900 字 = 昨年より約 500 字減少。設問数：8 = 昨年より1問増加。)

小問	難易度	コメント
問十七・A	易	〔文脈把握〕直前・直後とのつながりから容易に判断できる。
問十七・B	易	〔文脈把握〕直後の「めでたく」と並列の関係になるものを選ぶ。
問十八・1	易	〔文脈把握〕「ゆかし」の意味と直前の内容から考えれば容易。
問十八・8	易	〔文脈把握〕「おくる」は「先立たれる」の意。重要古語。
問十九	やや難	〔和歌〕甲では「みゆき」が「行幸」と「雪」、乙では「なき」が「無き」と「泣き」の掛詞。
問二十	標準	〔敬語〕各傍線部の前後の内容から動作の主体と客体を把握する。
問二十一	易	〔文脈把握〕傍線部の3行前から傍線部までの内容から判断する。
問二十二	易	〔文法問題〕「れ」の識別。傍線部7は、受身の助動詞「る」の未然形。
問二十三	やや難	〔内容合致〕本文全体を正確に読み取る必要がある。口は本文に書かれていない。
問二十四	易	〔文学史〕藤原定子は平安中期の人物。八とへは平安後期に成立。

(四) 漢文。出典：『新唐書』『旧唐書』。

(本文字数：約 180 字 = 昨年より約 30 字減少。設問数：4 = 昨年と同じ。)

小問	難易度	コメント
問二十五	標準	〔文脈把握〕傍線部までの内容から判断する。「免」は「許す・逃れる」の意。
問二十六	標準	〔句形〕仮定形の「雖……」と、願望形の「庶幾……」を把握していたかどうか。
問二十七	やや難	〔文脈把握〕空欄までの内容から判断する。空欄を含む文の主語は「鄭朗」。
問二十八	標準	〔文脈把握〕前後の内容と整合性のある内容になる選択肢を選ぶ。

〔総合コメント・今後の指針〕

大問三は、『無名草子』。藤原定子と藤原彰子は、多くの高校の教科書や予備校のテキストで取り上げられている人物なので、抵抗なく読めた受験生が多かったのではないだろうか。設問は、問十九と問二十三以外は容易。ふだんから、省略されている語句を補いつつ、じっくり読む、という練習をしてきた受験生は高得点がとれたであろう。

大問四は、『新唐書』『旧唐書』。昨年よりも易化したので、漢文の学習をきちんとしてきた受験生は、それほど苦戦はしなかったと思われる。本学部を受験する場合は、高校の副読本や予備校のテキストに載っている句形を細かい部分までしっかりと覚えておこう。